

解答

一

問一 a 感傷 b 故意 c 管理 d 未熟 e 興奮

問二 ① イ ② エ ③ ウ

問三 あまり上等

問四 エ

問五 ウ

問六 イ

問七 この学校で陽介を目指して勉強しようという考えに父も賛成してくれているので、きちんと陽介に謝って、けじめをつけようと決心する気持ち。

問八 エ

二

問一 ウ

問二 イ・カ

問三 A エ B イ C オ

問四 エ

問五 ア

問六 イ

問七 自分が生きていくのに必要な分より多くのものを得ること。

問八 エ

解説

一 出典は、^{さがわみつはる}佐川光晴「おれのおばさん」。

問一 a「感傷にふける・感傷的になる」のような使い方もあります。b「故意」の対義語は「過失」です。

問二 ①「水かけ論」とは、「話し合いは結局水かけ論に終わった。」のように「お互いが自分の主張を曲げず決着がつかない議論」の意味で使います。②「釘を刺す」とは、「あれだけ釘を刺しておけば必ず来るだろう。」のように「あらかじめ念を押す」意味で使います。③「凶星を指される」とは、「凶星を指されて絶句する。」のように「思わくなどをぴたりと言い当てられる」意味で使います。

問三 陽介が相手の気持ちをおしはかる（^{すいそく}推測する）ことのできる人物ということが、はっきりと分かる一文は傍線部より後から探します。傍線部1では吉見の気持ちを考えていますが、解答は大竹も大変だろうなど少し同情し、気の毒に思っているように、対象人物に変化があるので注意しましょう。

問四 「そんなふうには謝られるのがすきじゃない」とは、山野先生の「本当に申し訳ありませんでした」という謝罪について言っています。恵子おばさんは直前の会話で「あたしが言いたいのは、～精神的にも肉体的にも未熟な中学生によけいな情報を教えた大人がまちがっている」ということを言っています。それは、後の「あたしが一番怖いと思っているのは、大人の偏見で子供同士の関係がゆがめられること」にもあるように、大人がいくら謝っても傷ついた子供の気持ちは治らない、と言いたいのです。

問五 吉見の父親は、陽介と卓也に「君たちはお互いがどうして施設にいるのか知っていますか」と聞き、「知りません」という陽介の答えに対しつらそうに目をつむっています。つまり、二人が知らなかった事情を、大人がもらしてしまったので、それによって二人の関係が悪くなることを心配するとともに申し訳なく思っているのですね。

問六 「それ以上気にしてもしかたがない」とは、陽介が施設に来た事情に、卓也はこだわっていないことを意味しています。それは、陽介と親友になったのは陽介自身を好きになったからで、彼の過去は関係ないし興味もないということです。

問七 吉見は父親と目を合わせうなずくと、^{せすじ}背筋を伸ばして「高見くん、悪かった。ごめん」と謝っています。傍線部

直前の「恵子おばさんのことばを受けて」謝っていることから、吉見は「陽介と一緒に勉強して、二人でもっと上を目指したいかい。」という恵子おばさんの言うことを聞いてがんばってみようと思いきそのけじめとして、陽介に謝ったのです。

問八 傍線部の一文を読むと「先生も、担任ははずしてくれて校長先生に頼んだそうだけど、生徒たちが学校に残って言っているのに、そんな勝手は許されない」と恵子おばさんは言っています。山野先生が、生徒を放ったらかしにして学校を辞め、自分だけ逃げ出すことは許されない。簡単に逃げずに生徒たちと向き合っていくべきだと非難しているのです。

二 出典は、立岩真也「人間の条件 そんなものない」。

問一 まず「それ」という指示語の内容の「動物全般が〇〇しているとわかったとする。人間は動物の一部だ。だから、人間も〇〇した方がよい。」という考えがおかしいと言っているのですね。それは傍線部2の直後に「一つ、現実がそうだからといって、そうしなければならないわけではない。もう一つ、隣がそうだからといって、自分もそうしなければならないわけではない。」と筆者は述べています。

問二 「二種類の混同」とは傍線部1の行の「一つは」と次の段落の「もう一つ」のことです。それぞれ内容を確認すると、前者は「なにかの事実からどうしたらよいかは直接に出てこない、』『…である』ことと、『…すべき』こととは違う」とあるので「イ」が、後者は「全体の中で自分たちを除いた部分がこれこれであるべきだとしても、自分たちもこれこれであるべきだとはならない。」とあるので「カ」が選べます。

問三 接続語の穴埋めですが、それぞれ2か所ずつあるのでわかりやすい方から考えます。すべて後の空欄から考えてみると、Aは、「明らかにされたメカニズムがある（つまり、何かがわかった）」に対し「それが知られたことで～はじめてわかるということがあるのだろうか（つまり、わかったことはない。）」というつながりなので「しかし」が入ります。Bは、「たぶん」が副詞として後の「知らないということになるはずだ」につながっています。Cは、「それ以前の人はいそれを知らないということになる。」か「たくさんの方でも人たちは、それを知らないということになる。」のどちらかというつながりなので「あるいは」が入ります。

問四 二つ目の空欄Aの後の「それらが新たに知られたことで、人間はどうしたらよいかというようなことがはじめてわかるというようなことがあるのだろうか。」の部分が、傍線部3の一文の「新しい技術やなにかは、～その答を新しく示すことができるようには思えない。」と同じ意味になっているので、「人間はどうしたらよいか」という内容の選択肢を選びます。

問五 傍線部4の直前・直後に具体例があるのできちんと読みましょう。前に「最大限有意義な活動をしてはいない蟻を働き者の代表のように言い」、後に「人の世が騒がしくなると、動物たちの世界も騒がしく見える。」とあるように、「見たいことを見る」とは人間が「自分の都合のいいように見ている」ということですね。

問六 人間は「人工物を作りそれに囲まれて生きていながら、つごうのよいところで動物をもってきたり、自然をもってきたりというのはなにかずるくはないだろうか。」「私はこのごろ『自然な死』とかすぐ言う人たちが怪しいと思っている。」とありますが、これは、ふだんは人工物によって快適に過ごしているのに、死ぬときだけ自然を利用していることが不満で筆者は怒っているのです。

問七 「 」の段落と指定されているのでその部分をきちんと読みましょう。他の動物と違って特に人間にできることについて探すと「自分が生きていく分より～ずっと多くを得ようとする。そして実際に得ることができている。そんな動物はいないと思う。」とあるのでこの部分を使ってまとめます。

問八 傍線部の説明問題です。「人間という自然によって手を加えられた自然物＝人工物が、他のものよりよくない理由はすぐには見つからないはずだ。」とはどういう意味なのでしょう。最終段落に「人間や人間のあり方は常に自然の中にある」、「人間が他とは変わって、なにかできるようになったこともまた自然の変化の中にある。人によってはそれを進化の結果だと言いたいのだろうか」とあります。つまり、人間が自然のものを使うことで進化したとしても、それは自然の変化の一部と言えるのです。